

作成日 2016 年 02 月 25 日

改訂日 -

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

製品名： オルガードパック 50

会社名： オルガノ株式会社

住所： 東京都江東区新砂 1-2-8

担当部門： 機能商品事業部

電話番号： 03-5635-5214

FAX 番号： 03-3699-7244

推奨用途及び使用上の制限： 冷却水処理剤、スライムコントロール剤、殺菌剤

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性：	爆発物	：分類対象外
	可燃性又は引火性ガス (化学的に不安定なガスを含む)	：分類対象外
	エアゾール	：分類対象外
	支燃性又は酸化性ガス	：分類対象外
	高压ガス	：分類対象外
	引火性液体	：分類対象外
	可燃性固体	：区分外
	自己反応性化学品	：分類できない
	自然発火性液体	：分類対象外
	自然発火性固体	：区分外
	自己発熱性化学品	：区分外
	水反応可燃性化学品	：区分外
	酸化性液体	：分類対象外
	酸化性固体	：区分 2
	有機過酸化物	：分類対象外
	金属腐食性化学品	：分類できない
健康に対する有害性：	急性毒性（経口）	：区分 4
	急性毒性（経皮）	：分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	：分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	：分類対象外
	急性毒性（吸入：粉じん）	：区分 4
	急性毒性（吸入：ミスト）	：分類できない
	皮膚腐食性及び刺激性	：区分 1
	眼に対する重篤な損傷 又は眼刺激性	：区分 1
	呼吸器感作性	：分類できない
	皮膚感作性	：区分 1
	生殖細胞変異原性	：分類できない
	発がん性	：分類できない
	生殖毒性	：分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：分類できない
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	：分類できない
	吸引性呼吸器有害性	：分類できない
環境に対する有害性：	水生環境有害性（急性）	：区分 1
	水生環境有害性（長期間）	：分類できない

オゾン層への有害性 : -

* 上記の「 - 」は分類対象外又は分類できないことを示す。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :
・ 火災助長のおそれ ; 酸化性物質
・ 飲込むと有害
・ 吸入すると有害
・ 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
・ アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
・ 水生生物に非常に強い毒性

注意書き : 【安全対策】
・ 熱から遠ざけること。
・ 衣類、可燃物から遠ざけること。
・ 可燃物と混合を回避するために予防策をとること。
・ 取扱い後はよく手を洗い、うがいをする事。
・ この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
・ 粉塵/ミストの吸入を避けること。
・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
・ 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
・ 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
・ 環境への放出を避けること。
・ 使用前に安全データシート(SDS)を入手し、全ての安全注意を理解するまで取り扱わないこと。
【応急措置】
・ 火災の場合 : 消火に水噴霧、粉末、二酸化炭素を使用すること。
・ 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
・ 皮膚(または髪)に付着した場合 : 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。多量の水と石鹸で洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
・ 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
・ 吸入した場合 : 被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
・ 漏出物を回収すること。
・ ばく露又はばく露の懸念がある場合、異常がある場合 : 医師の診断/手当てを受けること。
・ 汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には十分洗濯をすること。
【保管】
・ 容器を密閉して換気のよい冷所で保管すること。
【廃棄】
・ 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
【その他】
・ 目的用途以外に使用しないでください。

3．組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 単一製品
 化学名又は一般名 等： 次の通り

成分名(別名)	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS No.
			化審法	安衛法	
有機窒素ハロゲン系化合物	非公開	非公開	非公開	非公開	非公開

4．応急措置

吸入した場合：吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：皮膚(または髪)に付着した場合：直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。多量の水と石鹸で洗うこと。
直ちに医師に連絡すること。

目に入った場合：目に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合：飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。

5．火災時の措置

消火剤：水噴霧、粉末、二酸化炭素

使ってはならない消火剤：情報なし。

火災時の特有の危険有害性：本品自体は引火点、燃焼性を有しないが、分解するまで加熱すると(約160℃以上)、分解され臭化水素、窒素酸化物、塩化水素の有毒ガスを発生することがある。
強酸化剤、可燃性物質、有機物質、他の酸化しやすい物質と爆発性混合物を形成するおそれがある。

特有の消火方法：火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
火元の燃焼源を断ち、消火剤で消火する。
移動可能な容器は速やかに安全な場所に移動する。
移動不可能な場合は散水によって容器を冷却する。
倉庫・貯蔵庫内(屋内)での火災又は燃焼生成ガスに暴露される恐れがある時は、自給式空気呼吸器及び全面形保護具を着用すること。

消火を行う者の保護：必ず保護具を着用し、できるだけ風上から作業する。
有害なガスやミストの吸入を避けるため呼吸保護具を着用する。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項：屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出場所周辺は関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、粉塵、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。

保護具及び緊急時措置：呼吸器の保護：防塵マスク
手の保護具：不浸透性の保護手袋(ビニル/ゴム手袋等)
目の保護具：保護ゴーグルまたは保護面(フェイスシールド)
皮膚及び身体の保護具：不浸透性の保護衣(ブーツ、エプロンあるいは全身保護服)

環境に対する注意事項：漏出した製品が直接河川等環境中に排出されないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材：できるだけ回収し、回収し切れなかったものについては、多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように適切な保護具を着用する。容器の転倒、落下等粗暴な扱いをしない。
薬剤をバックしている容器を分解しない。
みだりに粉塵等発生させない。
- 局所排気・全体換気 : 作業場所の換気を行うと共に、必要に応じて局所排気装置を設置する。
- 安全取扱い注意事項 : 屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
屋内作業場以外に汚染した保護具を持ち出してはならない。
取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

保管

- 適切な保管条件 : 涼しく、乾燥し、良く換気された室内で直射日光を避けて保管する。
容器に雨水等がかからないように保管する。
発火源の傍に置かないこと。
強酸化剤、可燃性物質、可燃性有機物質、他の酸化しやすい物質の傍に保管しない。
- 混触危険物質 : 強酸化剤、可燃性物質、可燃性有機物質、他の酸化しやすい物質
- 安全な容器包装材料 : 耐酸化性材質（耐塩素系材質等）

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない
- 許容濃度 : 日本産業衛生学会 : 設定されていない
A C G I H (2008) : 設定されていない
- 設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
屋内作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
- 保護具
- 呼吸器の保護 : 防塵マスク
- 手の保護 : 不浸透性の保護手袋（ゴム手袋等）
- 目の保護 : 保護ゴーグルまたは保護面（フェイスシールド）
- 皮膚及び身体 : 不浸透性の保護衣（ブーツ、エプロン及び全身保護服）の保護
- 衛生対策 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

9. 物理的及び化学的性質

- 外観 : 白色～乳白色固体
- 臭い : かすかにハロゲン臭
- pH : データなし
- 融点・凝固点 : データなし
- 沸点、初留点及び沸騰範囲 : データなし
- 引火点 : なし
- 爆発範囲 : 不燃性
- 蒸気圧 : 9.35×10^{-3} Pa
- 蒸気密度 : データなし
- 比重 : 1.8～2.0
- 溶解性 : 水に難溶（0.2 g/100ml、25℃）
- オクタール／水分分配係数 : データなし
- 自然発火温度（発火点） : 不燃性
- 分解温度 : 約 160℃ 以上
- 燃焼性（固体、ガス） : 不燃性

10. 安定性及び反応性

安定性	:	通常の取扱い条件においては安定である。
危険有害反応可能性	:	自己反応性、爆発性なし 酸化剤、可燃性有機物質、塩基性物質と反応する。 160 以上に加熱した場合、臭化水素、窒素酸化物、塩化水素の有毒ガスを発生することがある。
避けるべき条件	:	常温を超える高温。 強酸化剤、可燃性物質、可燃性有機物質、他の酸化しやすい物質との混触。
混触危険物質	:	強酸化剤、可燃性物質、可燃性有機物質、他の酸化しやすい物質
危険有害な分解生成物	:	臭化水素、窒素酸化物、塩化水素

11. 有害性情報

急性毒性	:	経口； ラット LD50 929 mg/kg 吸入； ラット LC50 1.1 mg/l(4hr)
皮膚腐食性・刺激性	:	重度の刺激性有り、重度の皮膚火傷（ウサギ）
眼に対する重篤な損傷 / 刺激性	:	重度の刺激性有り、重度の障害を起こすことがある。一時的・永久的に眼を損傷することがある。
呼吸器感作性/皮膚感作性	:	皮膚感作性有り（モルモット）。
生殖細胞変異原性	:	エイムズ試験で変異原性確認。
発がん性	:	NTP、IARC で発がん性物質に分類されていない。
生殖毒性	:	不定期 DNA 合成試験（in-vivo-liver）において生殖毒性なし。
特定標的臓器 / 全身毒性 （単回ばく露）	:	過剰暴露による上気道刺激性がある。息切れ、頭痛、吐き気。
特定標的臓器 / 全身毒性 （反復ばく露）	:	過剰暴露による上気道刺激性がある。息切れ、頭痛、吐き気。
吸引性呼吸器有害性	:	情報なし。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	:	[魚毒性] LC50 = 0.4mg/l（ニジマス 96hr、静止） LC50 = 0.46mg/l（ブルーギル・サフィッシュ 96hr、静止） LC50 = 1.6mg/l（シブスヘッド・ミノリ 96hr、急流） [甲殻類] LC50 = 0.75mg/l（ミジンコ 48hr、静止）
水生環境慢性有害性	:	情報なし
残留性 / 分解性	:	情報なし

13. 廃棄上の注意

産業廃棄物として都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託処理する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処理する。

14. 輸送上の注意

国際規制	:	
海上規制情報	:	I M Oの規定に従う。
航空規制情報	:	I C A O / I A T Aの規定に従う。
国内規制	:	
陸上規制情報	:	特記事項なし。
海上規制情報	:	危規則危険物に該当する。 船舶安全法・危規則に定められている運送方法に従う。
航空規制情報	:	航空法に定められている運送方法に従う。
国連分類	:	クラス 5.1（酸化性物質）（PG ）
国連番号	:	1479（その他の酸化性物質）
輸送の特定の 安全対策及び条件	:	運搬に際しては梱包材料の破損のない事確かめ、落下・転倒・損傷がない様に積み込み、荷くずれの防止を確実に行う事。

緊急時応急措置 : 140
指針番号

15. 適用法令

消防法 : 非該当
毒劇物取締法 : 非該当
化管法 : 第1種指定化学物質：非該当
第2種指定化学物質：非該当
労働安全衛生法 : 通知物質(法第57条の2)：非該当
船舶安全法（危規則） : 酸化性物質

16. その他の情報

- ・本データシートは、製品の安全な取扱いのための情報として、現時点で入手できる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性や完全性を保証するものではありません。
- ・本データシートは、新たな知見に基づき改訂されることがあります。
- ・本データシートは、本製品用途における通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いの場合は用途・用法に則した安全対策を実施してください。
- ・本データシートは日本国内向けに作成したものです。
日本以外で使用する場合は、その国での法律・規制等を確認してください。